# 埼玉医科大学病院
# 地域医療連携ニュース

No. 19
2024. 新年号

## ごあいさつ

院長補佐　松尾　幸治

新年おめでとうございます。昨年は連携施設の先生方に大変お世話になりありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私は篠塚病院長の体制の下、医の倫理委員会、成人虐待防止委員会等、患者さんの倫理・権利について院内体制を整える役割を担っております。これまで、各種院内委員会活動から、DNAR（Do Not Attempt Resuscitation）意志確認書の改訂、リビング・ウィル（自分自身で最期の医療を求める意思表示）の作成、睡眠薬フォーミュラリの作成などを行って参りました。DNAR 意志確認書やリビング・ウィルについては多職種のほか外部委員の一般の方のご意見も反映させております。フォーミュラリは地域での普及啓発が重要になっております。今後、当院ホームページにも掲載予定であり先生方に活用していただきやすいよう工夫して参ります。

本年は、医師の働き方改革のため当院も診療体制の変更がございます。連携施設の先生方からご紹介いただいた患者さんにご迷惑にならぬよう気を配り、安心して受診できるよう引き続き病院づくりをして参ります。
本年もご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

※松尾院長補佐（写真中央）と外来スタッフ

Contents

**ご紹介**…… 2
安全性を重視した小児低侵襲手術のご紹介

**診療科のご紹介**…… 3
呼吸器内科
緩和医療科

**医師のご紹介**…… 4
消化器内科・肝臓内科
リウマチ膠原病科
麻酔科

病院長からのメッセージ

**外来で活躍中の医師のご紹介**…… 5
消化器内科・肝臓内科
核医学診療科

**看護部から**…… 6
西館３階病棟（精神科急性期･身体合併症病棟）の紹介

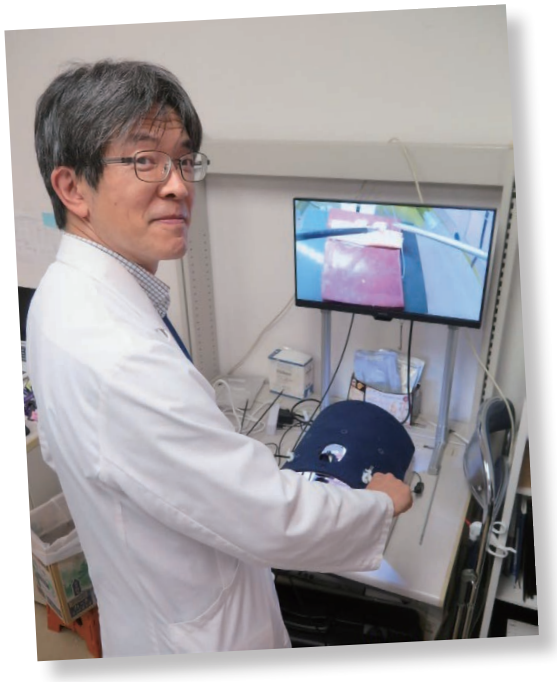
**地域医療連携室からのお知らせ**… 7

**提携医療機関から**
杏クリニック…… 6
埼玉石心会病院…… 7

# 安全性を重視した小児低侵襲手術

「腹腔鏡手術」は皆さまご存知だと思います。腹腔鏡手術のメリットは創部を小さくできて整容性が高いということのほかに、術後の癒着が少なく腸閉塞のリスクが低減する、手術部位に近接して拡大して見ることができるために精緻な手術を行える、創から遠い部分の手術も行うことができるということがあり、術後の将来の長い小児には大変有用だと考えられています。しかしながら、腹腔鏡手術をきちんと導入できている施設は多くはありません。その理由としては、小児の腹腔鏡手術は狭い空間で細かい手術を行うので安全に行うためにはさまざまな技術、ノウハウの習得が必要だからだと言えます。腹腔鏡手術、胸腔鏡手術を合わせて内視鏡外科手術といいますが、小児で最も難易度が高い内視鏡外科手術の一つとして挙げられる胸腔鏡下食道閉鎖症根治術は、日本全国で食道閉鎖症に対する手術の10%未満に対してしか行われていません。このように小児の手術は数が少ないこともあり、施設間で手術の内容が大きく異なっています。

内視鏡外科手術に関しては、安全に高難度の手術を遂行できることを保証する学会の技術認定制度があります。埼玉県には技術認定取得者が４名おりますが、そのうちの２名（常勤１名、非常勤１名）が埼玉医科大学病院小児外科で手術を行っています。また、当科のほかの医師も日々トレーニングをしております。



一方、従来の開腹手術・開胸手術（合わせて開創手術と呼んでいます）にもメリットがあります。手術部位の全体像がみやすい、出血のコントロールがしやすい、実際に臓器を触って感触を確かめられる、操作を手元で行うことができるので手術時間が短くなるといったことが挙げられます。逆に、開創手術では創部が大きくなりやすい、腹壁、胸壁へのダメージの影響で将来変形をきたすことがある、手術部位以外の臓器・組織に触れるので癒着が生じやすいといったデメリットがあります。

そこで、当院では内視鏡外科手術と開創手術の両者のよいところを取り入れて術式を選択しています。たとえば、上下に分かれた食道をつなぐ食道閉鎖症の手術では開創手術では呼吸筋を傷めてしまうので内視鏡外科手術（胸腔鏡下食道閉鎖症根治術）を行っています。大きな腫瘍の手術では、全体像が見やすく、出血のコントロールもしやすい開創手術を選択します。十二指腸閉鎖症の手術では、十二指腸はおなかの浅いところから深いところへ入っていく臓器なので、深い部分は内視鏡外科手術の操作、浅い部分は開創手術の操作を行ってより安全で低侵襲な手術を行うように心がけています。

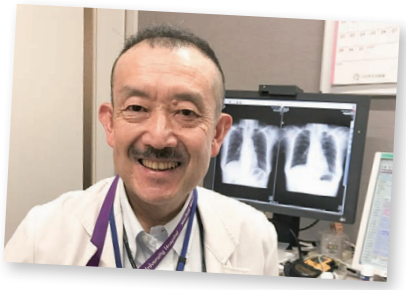
**開業の先生方へ医療連携のメッセージ**

埼玉医科大学病院小児外科は小児の手術後の将来が長いことを考えた治療を今後も追求していきます。鼠径ヘルニアや急性虫垂炎といった頻度の高い疾患でも施設によって術式が異なります。是非、患者さんに低侵襲手術があることをお話頂けると幸いです。ありふれた疾患なのでどこで手術しても同じだと思わず、どんどんご紹介下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

小児外科　教授　田中裕次郎
外来☎：049-276-1905

## 呼吸器内科　教授　永田　真（ナガタ　マコト）

当科では、喘息、COPD、肺炎や真菌症等の呼吸器感染症、また各種の間質性肺炎など、広く呼吸器疾患の診療を担当しています。肺癌は診断と、各種薬物療法・免疫療法を担当しています。肺癌を含め、外科的手術の適応がある症例は、国際医療センターにある呼吸器外科と逐次連携し、転院を含めた包括的診療の態勢をとっております。精査の段階では同センターよりも検査入院等が早い場合がありますので、肺癌の可能性のあるケースを含め、ご遠慮なく患者さんをご紹介頂ければと存じます。県西部を中心に広大な領域の呼吸器疾患患者さんをお預かりしている関係で、特定機能病院としての急性期の治療の時期を超え、中・長期的療養に移行する段階の患者さんにつきましては、ご紹介元を含め地域の先生方への連携をお願いさせていただいておりますので、御理解を頂戴したいと存じます。なお当院は埼玉県で唯一のアレルギー疾患医療拠点機関に指定されており、当科がその診療を中心的に担っております。難治性喘息での各種生物学的製剤による治療、アレルゲン免疫療法の普及等に力をいれております。お困りの患者さんはどうぞご紹介いただければと存じます。



**診療部長からのメッセージ**

当院は県西部の広大な地域の重症呼吸器疾患診療を担っているとともに、大学病院として我が国で最初のアレルギーセンターを擁しており、自分がセンター長を兼任させていただいております。日本のアレルギー専門診療の牽引役をこれからも果たして参りたいと存じます。今後とも何卒宜しくご指導のほど、お願い申し上げます。

呼吸器内科　診療部長　永田　真
外来☎：049-276-1197

# 診療科のご紹介

## 緩和医療科　教授　岩瀬　哲（イワセ　サトル）

緩和ケアとは、お体や気持ちの辛さを和らげるための医療やケアのことです。緩和医療科では、包括的な地域医療へのアプローチを行い、救急医療から緩和医療へのシームレスな橋渡しと環境調整を重視しています。当科の緩和ケアチームは、地域の医療ニーズに対応し、患者さんとその家族に寄り添った医療、ケアを提供することが使命と考えています。

救急疾患の中に緩和医療が対応できる領域を見出し、速やかに関与するため、救急科と協働し、緩和医療チームとしても早期に介入します。また、外来通院患者さんの救急搬送を減らすために、早期に病状変化をとらえ把握するための研究も進めています。

患者さんと家族の価値観や希望を尊重し、個々のニーズに合わせた緩和医療の提供と支援を行う他、ケアプランの立案も行います。

患者さんの基礎疾患や関連病態に対する適切な治療も行っており、内科的視点による総合的なアプローチにより、健康状態を緩和ケアの枠を超えて支えています。

患者さんのケアの継続性と質を確保するため、地域の医療機関や診療所、在宅医療機関等との連携を強化し、地域の医療サービス全体の連携を促進しています。

岩瀬 哲先生（写真：右）

**診療部長からのメッセージ**

当科は、フレイル患者に「地域包括ケア」を提供する診療科です。我々はフレイルを一括りに考えず、独自にフレイルを分類しています。現在の分類には、がんフレイル、ロコモフレイル、地域フレイルなどがあります。そして、外来の患者さん、退院後の患者さんの日常生活動作をモニターし、緊急搬送の予防を実践しています。

緩和医療科　診療部長　岩瀬　哲
外来☎：049-276-1766

## 消化器内科・肝臓内科　教授　今井　幸紀（イマイ　ユキノリ）

近隣地域の医療機関の皆様、平素より大変お世話になっております。2023 年 10 月 1 日付で埼玉医科大学消化器内科・肝臓内科教授を拝命いたしました。

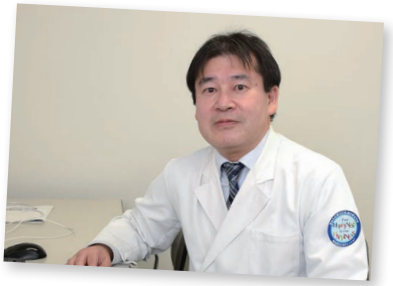
当科の診療は消化管、肝、胆、膵疾患といった消化器領域の全般に亘ります。私の専門は主に上部消化管疾患、肝硬変、肝がんの内科的治療になりますが、特に消化管出血や食道胃静脈瘤の治療、肝がんのカテーテル治療や薬物治療では多くの患者さんを担当してきました。このうち肝がんの診療では、近年分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬による治療の進歩に伴い、方針が変化してきており、以前はあまり有効な治療法がなかった進行例に対しても積極的な治療が行われるようになりました。肝がん患者さんにおいても高齢化は顕著ですが、元気な方であれば高齢でもこれらの治療が適応となることが多いので、是非当科にご紹介いただければと存じます。今後も近隣地域の多くの患者さんに対応できるよう、診療科医師一同、誠心誠意務めさせていただきますので、どうぞご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

# 医師のご紹介

## リウマチ膠原病科　教授　荒木　靖人（アラキ　ヤスト）

近隣地域の医療機関の皆様には平素より大変お世話になっております。私は 2023 年 10 月より埼玉医科大学リウマチ膠原病科教授を拝命いたしました。これまでたくさんの患者さんを当院にご紹介いただき、大変感謝申し上げます。今後もますます地域の先生方と診療の連携を図ることができましたら幸いであります。

近年は高齢化社会が問題となっております。関節リウマチにおきましても従来より発症年齢が高くなっており、高齢発症の関節リウマチの患者さんを経験する事が多くなってまいりました。この場合、一般的な鎮痛解熱薬だけでは関節痛のコントロールが難しく、関節リウマチに対する治療が必要となってきます。さらに痛みが続けば体動困難となる場合もありますので、治療開始が遅れてしまうと日常生活に支障が出てしまいます。一見するとリウマチ性多発筋痛症と区別がつきづらく、ステロイドを開始しようかどうか迷われる場合もあるかもしれません。当科では断らない医療をこれまで実践してまいりましたが、今後も継続していきたいと考えております。リウマチ性疾患の診断や治療に関しましてお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院にご紹介いただければと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



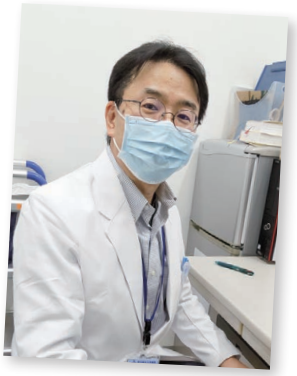
## 麻酔科　教授　今町　憲貴（イママチ　ノリタカ）

2023 年 7 月 1 日付で埼玉医科大学病院麻酔科教授を拝命いたしました。

私は 1994 年に島根医科大学医学部医学科を卒業したのち、島根医科大学大学麻酔科および関連施設で麻酔全身管理の研鑽を積みました。

この原稿を書いている 10 月 13 日は、1804 年に華岡青洲が世界で初めて全身麻酔に成功したことを記念して日本麻酔科学会が「麻酔の日」と定めた日です。当時の全身麻酔は麻酔効果に約 2 時間、手術開始までに約 4 時間、覚醒に 6 ～ 8 時間かかり、失明など多くの合併症があったとされています。200 年以上の時を超えて現在では安心、安全を前提として数多くの手術に対応する麻酔管理を日々行っております。最近では厳重な周術期管理が術中の安全だけでなく患者の長期予後に繋がることがわかってきました。麻酔科では、ハイリスク患者を含めた術前診察の実践や看護師・薬剤師との多職種チームでの術後急性期疼痛管理を開始し、外科系のプロフェッショナルな手術を支え、チーム医療として周術期医療の質の向上を目指しています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 病院長からのメッセージ

**消化器内科・肝臓内科教授　今井幸紀先生**

今井先生は、以前より肝癌の内科的治療や門脈圧亢進症治療のエキスパートとして、当院において多くの実績があり、まさしく第一人者です。また、消化器疾患の診断治療にも精通しています。近年、この領域の診断治療は大きく変化しており、該当する患者さんがおられましたら是非ご紹介ください。病院全体でも今後消化器領域の診療においては、内科外科を含めてよりご期待に応えられるよう、組織作りも構築してまいります。

**リウマチ膠原病科教授　荒木靖人先生**

荒木先生は 2023 年 10 月より埼玉医科大学リウマチ膠原病科教授に就任されましたが、以前から関節リウマチ疾患の専門家として、多くの患者さんの診断治療を行ってきました。高齢化社会において今後益々その役割は高まると認識しています。また、診療のみならず研究や教育面においても、大学病院でさらに幅広い活躍が期待されます。

**麻酔科教授　今町憲貴先生**

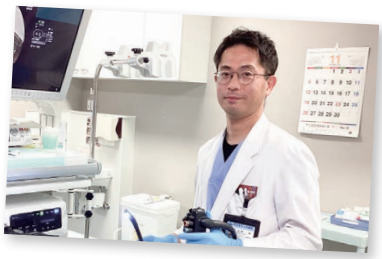
今町先生は、2023 年 7 月より教授として当院に赴任されました。大学病院では多くの手術がされていますが、高齢者や多くのリスクも持った患者さんも年々増加しており、周術期管理のみならず疼痛管理等は今後益々重要となってきています。その中で今町先生は赴任後短期間にもかかわらず、既にチーム医療のリーダーとして重責を担っております。今後益々その活躍が期待されます。

## 消化器内科・肝臓内科　准教授　水野　卓（ミズノ　スグル）

近隣地域の医療機関の皆様、平素より大変お世話になっております。私は消化器内科・肝臓内科で胆膵疾患を専門として診療を行っています。

胆石による急性胆管炎や、膵癌などによる閉塞性黄疸に対しては、内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）による胆管ステント留置術を行っています。治療の難しい巨大胆管結石に対しては、経口胆道鏡下の電気水圧式結石破砕術（EHL）や体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を駆使して治療にあたっています。胃切除後や癌による幽門部閉塞の患者さんの場合には、ERCP による治療が困難であるため、超音波内視鏡（EUS）を用いた治療（インターベンショナル EUS）を行っています。この治療法は、胃から EUS の観察下に肝内胆管を穿刺し、胆管から胃にかけてステントを留置する治療方法です。EUS は胆膵癌の早期診断に有用であり、膵癌の高危険群である膵のう胞を対象に多くの検査を行っています。また慢性膵炎や膵石、自己免疫性膵炎や原発性硬化性胆管炎などの稀少疾患の診療も得意としています。

若手医師たちと一丸となって積極的に診療を行っています。胆膵疾患でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。



# 外来で活躍中の医師のご紹介

## 核医学診療科　教授　松成　一朗（マツナリ　イチロウ）

日頃から診療連携にご高配をいただき、誠にありがとうございます。核医学診療科の診療部長をさせていただいている松成一朗です。

当科では、皆様からのご要望に答えるべく、PET を除く幅広い核医学検査に対応可能な体制を整えています。当科で可能な検査の例としては、骨スキャン（全身骨 SPECT/CT を含む）、ガリウムスキャン、脳血流 SPECT、脳ドーパミントランスポーター SPECT（ダットスキャン）、甲状腺スキャン、副腎スキャン、副甲状腺スキャン、腎動態スキャン、腎静態スキャン、心筋血流 SPECT、心筋交感神経スキャンなど多岐にわたります。

また、検査機器としては、SPECT/CT 2 台、SPECT 1 台の 3 台体制ですが、特に本年導入した最新鋭 SPECT/CT 装置である GE 社製 StarGuide（写真ご参照下さい）は、12 個の半導体検出器を近接することで従来得られなかった優れた空間分解能や感度を有し、脳病変や細かな骨病変の検出、小児の腎瘢痕の検出などに威力を発揮します。これらの機器は核医学に精通した診療放射線技師により運用されています。また、画像診断はすべて経験豊富な核医学専門医によってなされています。

何かご不明の点などありましたら、核医学検査室（049-276-1300）までお気軽にお尋ね下さい。核医学検査室のスタッフ一同、心よりお待ちしております。

# 看護部から

**西館３階病棟（精神科急性期・身体合併症病棟）の紹介**

埼玉医科大学病院　神経精神科・心療内科は、精神科救急や急性期・身体疾患の合併症を中心とした入院診療を行い、24 時間体制で対応しております。特にうつ病、双極症（躁うつ病）、てんかん、児童・青年期、認知症・老年期に力を入れております。

現在の医療ではチーム医療が主流であり精神科病棟でも、医師、看護師、薬剤師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床検査技師、栄養士等がそれぞれの専門性をもとに高い知識と技術を発揮し、多職種連携・協働のもと、その人らしい生活を実現するための医療を提供しております。

当院神経精神科・心療内科には精神科認定看護師が３名在籍し病棟及び外来に配置され、それぞれのフィールドで看護実践の主軸、チーム医療の中核を担っております。その中で、『個人の尊厳』と『権利擁護』を基本理念として、その人らしい生活に向け患者さん・ご家族に対して入院中の支援は勿論のこと、退院後の地域生活での支援もシームレスに、かつ継続的に行えることが当院神経精神科・心療内科の強みであります。精神疾患は、例え同じ疾患でも症状は画一的ではなく、個々に特有の症状を呈します。患者さんの人間性や入院以前の生活、病状、背景等を大切に、患者さんとのパートナーシップを高めながら、患者さんの最善の利益を追求して看護を提供してまいります。多様性あふれるチームで、専門医療と地域医療を両立して、地域の皆様に貢献できるよう努力していきます。

精神科病棟の多様性あふれる多職種チーム

精神科認定看護師
原島健太

# 提携医療機関から

## 医療法人 あんず会
## 杏クリニック（狭山市）

杏クリニックは 2016 年に開設し「狭山を日本で最も安心して自宅療養できる街にする」ことを目標に在宅医療に取り組んでまいりました。

質の高い在宅緩和ケア・穏やかな最期は在宅医療に求められる重要な役割です。埼玉医科大学国際医療センターから引き継がせていただく際に大変ありがたいのは、連携室を通じて患者様の病歴だけでなく、その方が人生で大切にしてきたこと、家族の想いなども教えていただけることです。

2024 年は医師を増員しより広い範囲の患者様の要望に応えられる体制となります。またより円滑に在宅移行できるように連携室を強化します。当院の在宅医療に関して何かご意見がありましたら遠慮なくご連絡ください。

**医療機関情報**

在宅医療：24 時間往診対応
問い合わせ 04-2937-7053（在宅医療部門）

外来診療（内科・緩和医療）：水曜日 13:00 ～ 20:00
問い合わせ 04-2935-3882

HP：http://anz-homecare.com

院長：鬼澤 信之
（onizawa@anz-homecare.com）

# 地域医療連携室からのお知らせ

## 提携医療機関・登録医制度及びインターネット予約（カルナ予約）について

**提携医療機関・登録医制度について**

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ります。

**インターネット予約（カルナ予約）**

インターネット（カルナ予約）にて、CT検査、MRI検査、アイソトープ検査、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査及び診療科（一部除く）の予約が取得できます。患者情報（診療情報提供含む）を入力していただくことで、受診日の予約ができます。紹介患者さんは受診日に初診受付に寄らずに、直接診療科又は検査受付にてお待ちいただけます。なお、提携医療機関（登録医）に申し込まれた医療機関のみがシステムの利用条件になります。

【詳しくは 当院ホームページ「医療機関の方へ」
➡「地域医療機関との病診連携システム」➡「お申し込み方法」をご覧ください。】

## 予約センター（電話初診予約）について【予約センター：049-276-1179】

**予約受付時間　8：30 ～ 17：00　月曜日～土曜日（祝日・年末年始を除く）**

患者さんより、電話にて初診予約の取得が出来ます。（紹介状必須）（医療機関からでも予約可、一部予約枠の無い診療科がありますので予めご了承ください。）ご紹介患者さんの受診科が決まりましたら、当院ホームページ内「予約センター（電話初診予約）」にある「電話初診予約ご案内書」をダウンロードし、紹介状と一緒にお渡し下さい。

救急患者のご紹介は直接、救急センターへご連絡ください。
**TEL：049-276-1199　FAX：049-295-8007**

## 社会医療法人財団 石心会
## 埼玉石心会病院（狭山市）

当院は 1987 年開設以来、地域に根差した「断らない医療」を掲げ、医療を行ってきました。開設時は 288 床でスタートし、現在は 450 床（急性期 410 床、回復期 40 床）まで増床し診療にあたっています。当院のトピックスとしては 2025 年春に救急強化を目的とする新棟が完成予定で 470 床に増床します。今後は、地域の急性期医療に対して、さらに貢献していきたいと思っております。

貴院には日頃からお世話になっており、当院に無い科や対応困難な患者さんの相談に心よく対応して頂いております。

今後は患者さんや連携医療機関から信頼される質の高い医療を提供できるよう精進しますのでよろしくお願い致します。

病院長：石井　耕士

**医療機関情報**

診療科目：ER総合診療センター（救急科、総合診療科、救急外科、集中治療科）、心臓血管センター（循環器内科、心臓血管外科）、低侵襲脳神経センター（脳神経外科、脳血管内治療科、神経内科）、外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、眼科、形成外科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、メンタルヘルス科、歯科

その他診療科は、さやま総合クリニックへお問い合わせください。

外来診療時間：　月～金曜日　8:30 ～ 17:00
土曜日　8:30 ～ 12:30

休診日：日、祝日　※救急の場合は24時間365日対応

ホームページ：https://saitama-sekishinkai.jp/

## 埼玉医科大学　建学の理念

第 1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きるすぐれた実地臨床医家の育成
第 2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長を主体的に開展し得る人間の育成
第 3. 師弟同行の学風の育成

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

高い倫理観と人間性の涵養
国際水準の医学・医療の実践
社会的視点に立った調和と協力

## 埼玉医科大学病院の基本理念

**当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。**

## 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心で質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 患者さんの権利

**当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。**
**これらを尊重した医療を行うことをめざします。**

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心で質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

## 小児患者さんの権利

**当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。**
**これらを尊重した医療を行うことをめざします。**

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

## 連携医療機関からの各種問い合わせ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 救急センター | ：049-276-1199 | 医療福祉相談室（退院調整） | ：049-276-2119 |
| 地域医療連携室 | ：049-276-1876 | 入退院・患者支援室 | ：049-276-1484 |
| 予約センター(外来初診予約) | ：049-276-1179 | セカンドオピニオン受付 | ：049-276-1121 |

あなたの幸せが私達の幸せです
Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS
埼玉医科大学のミッション


埼玉医科大学病院
地域医療連携ニュース（19号）

発　　行：埼玉医科大学病院
発行責任者：篠塚　望
編　　集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者：池園　哲郎・中里　良彦
電　　話：049-276-1876　地域医療連携室
住　　所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発 行 日：2024 年 1 月 1 日


※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。